

半導体漫遊記

269

湯之上隆

用とファンドリー用の二つの工場を建設する(4)IBMと先端半導体の研究開発で協業する、というビジョンを明らかにした。

月6日、世界初となる2nmの半導体製造に成功したと発表した。続いてWall Street Journal誌が7月15日、Intelが世界4位のファンドリー企業の米GLOBALFOUNDRIES(GF)を約300億米ドルで買収する計画を明らかにした。

3nmのプロセッサの製造を生産委託した。これは、Intelが自力で3nmを立ち上げるまでの時間稼ぎと思われる。加えて、Gelshin CEOは、米アリゾナ州にTSMCを誘致し、そこに520億ドルの補助金を投入しようとする米政府に対して「米国の税金

は、米国企業(つまりIntel)に使うべきだ」と異議を唱えたという(6月23日)。

このようにGelshin CEOは就任から5カ月で、GF買収によるファンドリーの現、およびIBMと連携することにより最先端の自力立上げを図るとともに、その資金を

2016年に10nmのプロセッサの量産立ち上げに失敗したIntelは、その後TSMCに微細化で先行され、そのTSMCに生産委託したAMDにプロセッサのシェアを侵食されつつある。

EOは3月23日に「Intel Unleashed: Engineering the Future」を

これに対して筆者は、Intelの戦略は「絵にかいた餅」だと思った。というのは、IntelにはTSMC

のようなファンドリー事業は無理だし、未だ10nmの量産も満足にできない状態では、いくらIBMの協力を得たとしても7nmの開発と量産は不可能だと思っただけからだ。

この報道には大いに驚くとともに、Intelに対する認識が大きく変わった。そして、IBMの3社により、効率的な補完関係を構築できるのだ。

さらにGelshin CEOは、TSMCに

しかし、その戦略実現の前には大きな壁が立ちほだかっている。それは、GFの買収における中国司法当局の承認である。バイデン政権になり、米中関係は悪化の一途をたどっている。従って、このままでは中国はこの買収を承認しないだろう。Gelshin CEOがどのような戦略で、買収を成功させるかに注目したい。

(微細加工研究所・所長)

そのIntelの8代目CEOに、Patrick Gelsinger氏が2021年2月15日に就任した。Gelshin氏が20

表し、(1)7nmの

事業は無理だし、未だ10nmの量産も満足にできない状態では、

驚くとともに、Intel

さらにGelshin CEOは、TSMCに

しかし、その戦略実現の前には大きな壁が立ちほだかっている。

それは、GFの買収における中国司法当局の承認である。バイデン政権になり、米中関係は悪化の一途をたどっている。従って、このままでは中国はこの買収を承認しないだろう。Gelshin CEOがどのような戦略で、買収を成功させるかに注目したい。

(微細加工研究所・所長)

インテルの逆襲始まる

立ちほだかる中国当局の壁



パット・ゲルシンガー氏(インテル提供・共同)

「IDM2.0」と名付けた戦略により、垂直統合型を維持するとともにファンドリー事業を開始する(3)200億を投じて、アリゾナ州にプロセッサと協業するIBMが5

この報道には大いに驚くとともに、Intel

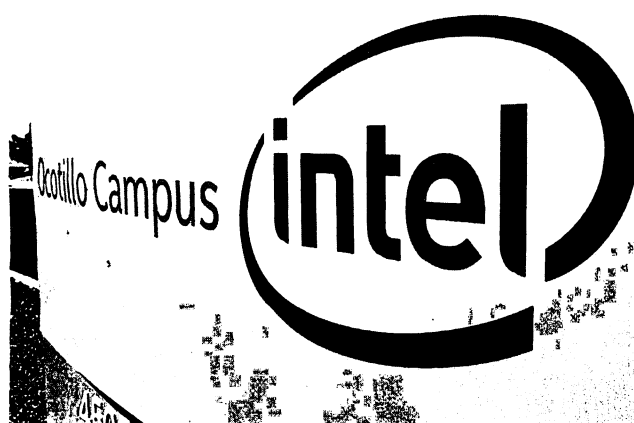
さらにGelshin CEOは、TSMCに

しかし、その戦略実現の前には大きな壁が立ちほだかっている。

それは、GFの買収における中国司法当局の承認である。バイデン政権になり、米中関係は悪化の一途をたどっている。従って、このままでは中国はこの買収を承認しないだろう。Gelshin CEOがどのような戦略で、買収を成功させるかに注目したい。

さらにGelshin CEOは、TSMCに

(微細加工研究所・所長)



インテルのロゴ=2020年10月、アリゾナ州で(ライター=共同)